

農地法による許可申請受付〆切は毎月10日です

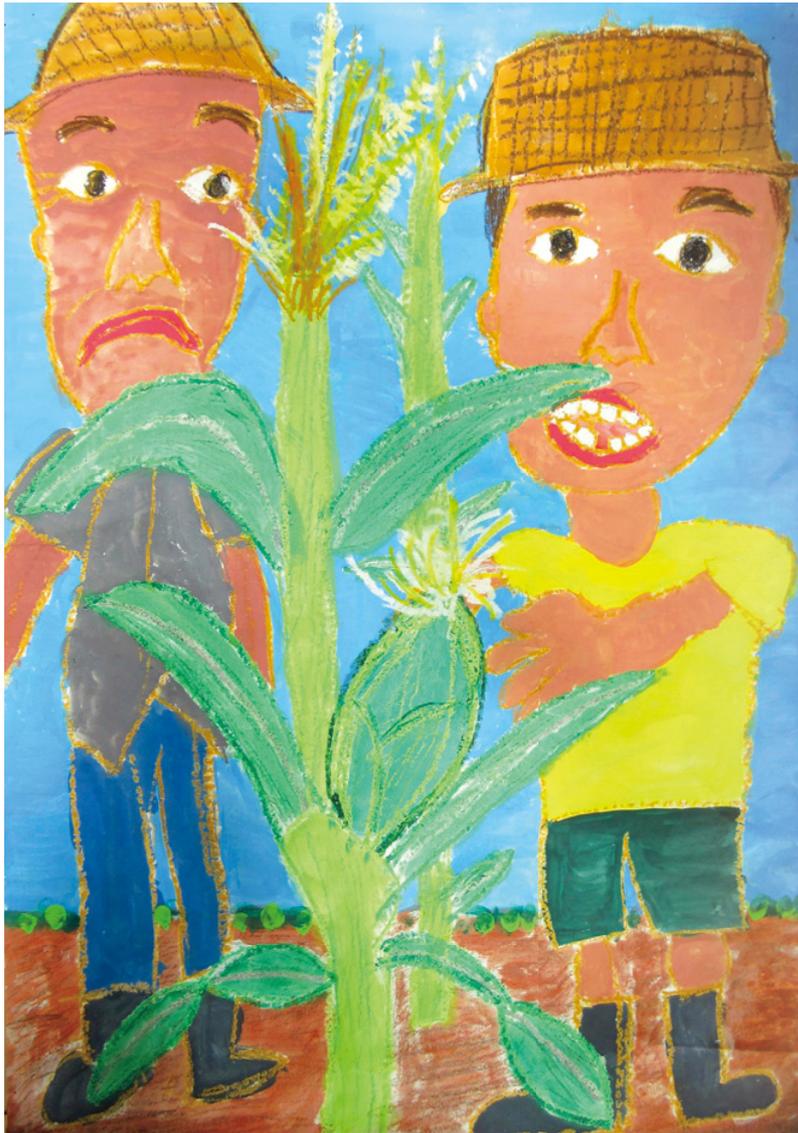
第47号

昭和53年創刊号から通算第132号

農政

# ちちぶ

令和6年1月1日発行  
秩父市農業委員会  
秩父市熊木町8番15号  
電話 0494(25)5231  
責任者 横田 友



令和5年度 第18回

農業に関する作文・図画コンクール

図画の部 最優秀賞

花の木小学校 2年 飯島 駆音

い い じ ま く お ん

「だいすきなとうもろこし」

## 主な内容

- 農業委員長挨拶・新しく任命された農業委員の紹介…………… 2
- 令和5年度 第18回農業に関する作文・図画コンクール…………… 3～6
- 農業委員会、環境課からのお知らせ…………… 7
- 農業政策課、農業委員会からのお知らせ…………… 8
- 朝の光、耕地の話題…………… 9
- 農を詠む、知々夫の夜ばなし、編集後記…………… 10

# 年頭にあたり



秩父市農業委員会  
会長 横田 友



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方には、日頃より当農業委員会活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当農業委員会は、昨年7月委員の改選により新たな体制でスタートし、集約や耕作放棄の発生防止解消、新規就農者の参入促進等、農地利用最適化の推進に努めてまいりました。本年も同様の活動を継続してまいります。

農業をとりまく状況は、新型コロナウイルス感染症から景気が回復してきたとはいえ、ウクライナ侵攻等により、原油価格の高騰や燃料、農業資材の価格上昇など、農業者に深刻な影響を及ぼした一年となりました。また、温暖化による少雨などにより、作物の生育が悪くご苦労された方も多いかと思えます。このような気候が毎年続くのでしょうか？これからは、暑さに強い作物を考え、工夫が必要になります。

さて、「農業に関する作文・図画

コンクール」は、一昨年まで新型コロナウイルスの影響により、規模を縮小して開催していましたが、第18回目となった令和5年度のコンクールは、規模を戻し表彰式も行うことができました。子どもたちが一生懸命表現した作文・図画作品は、夏休みに畑作業のお手伝いを通して農業を身近に感じた様子が伝わってきて、良い作品ばかりでした。特に図画作品で優良賞を受賞した「農業のバトンをつなぐ未来の手」は、題名ともに印象的な作品でした。本誌に最優秀賞、優秀賞、JAちちぶ特別賞を受賞した図画と作文作品を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

また、昨年11月の広報ちちぶには、高篠小学校2年生の生活科授業にて、サツマ芋掘りを行った様子が掲載されました。少しでも土に触れ、体験することは素晴らしい、自分たちが育てたことで、さぞ美味しかったことと思います。多くの子どもたちが農業に関心

をもち、もつと農業に関心をもつていただけるように願っています。

昨年10月から12月の間、農地利用状況調査を行いました。今年度から国の方針により、タブレットを活用して現地調査をおこないました。現在、調査の結果を農業委員会事務局で取りまとめられていないと思われる農地については、耕作者の意向調査を行う予定です。ご協力をお願いします。

農業従事者が減少する今こそ、農業委員と農地利用最適化推進委員がお役に立てるよう邁進してまいりますので、本年もご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



タブレット使用中...

新しい農業委員を紹介します

令和5年、農業委員会の改選後、欠員となっていた農業委員一名について、追加募集及び審議会などを経て、この度、左記の者が就任しました。

任期は令和5年12月15日から令和8年7月19日です。

農業委員は、地域農業者の代表で、農地等に関する問題のよき相談相手です。お気軽にご相談ください。



黒田 昭雄  
(上吉田)

## 農業委員の主な仕事

農業委員会の会議に出席し、農地法や他の法令に基づく、農地の転用・権利移動にかかる許可等に関して、審議を行います。

## 第18回 農業に関する作文・図画コンクールを開催しました。

秩父市内の小学生を対象にした農業に関する作文・図画コンクールを開催しました。本コンクールは、小学生に農業への関心をもってもらうこと、農業の現状や未来に対する意識を探ることを目的とし、実施しています。

本年は、作文が16点、図画が35点の作品の応募があり、入賞作品は審査会を経て次のとおり決定しました。

### 第18回 農業に関する作文・図画コンクール審査結果

※各部門入賞作品数

最優秀賞 各1点  
優秀賞 各2点

優良賞 各7点  
JAちちぶ特別賞 各1点

※優秀賞・優良賞の中の並び順は、学年順です。

図画作品については、同点の作品が2点あったため、作文作品よりも1点多く優良賞を設けています。

## 作文の部 入賞者名 (敬称略)

【応募総数 16点・入賞作品 11点】

賞別	学年	学校名	氏名	題名
最優秀賞	4年	大田小学校	木本 大貴	ずっと守りたい ばあちゃんの大切な畑
優秀賞	1年	花の木小学校	堀口 桂瑚	おじいちゃんとはたけしごと
優秀賞	5年	南小学校	加藤 正慎	家での畑仕事で学んだこと
優良賞	4年	尾田蒔小学校	しまざき ゆうあ	あまくておいしいトウモロコシ
優良賞	4年	大田小学校	あらい そら	農業の仕事
優良賞	4年	大田小学校	とみた かな	麦作りから考えたSDG s
優良賞	5年	秩父第一小学校	いづか ゆい	大好きなトマト
優良賞	5年	尾田蒔小学校	いわた ゆうあ	じゃが芋作りはまかせてね
優良賞	6年	尾田蒔小学校	しまざき とあ	農業のありがたさ
優良賞	6年	荒川西小学校	あらい ひゅうが	おいしいものを食べるという事は
JAちちぶ特別賞	6年	大田小学校	きもと あおい	こらからも続けたい畑のお手伝い

## 図画の部 入賞者名 (敬称略)

【応募総数35点・入賞作品12点】

賞別	学年	学校名	氏名	題名
最優秀賞	2年	花の木小学校	いじま くおん	だいすきなとうもろこし
優秀賞	4年	荒川西小学校	あらい はつき	ぶどうの仕上げをするおばあちゃん
優秀賞	5年	吉田小学校	ひこく ほあすた	ぼくとじゃがいも
優良賞	1年	尾田蒔小学校	おおく ほがく	おじいちゃんのはたけ
優良賞	1年	大田小学校	みやはら	にんじんづくり
優良賞	3年	花の木小学校	やまなか みちと	むずかしかった田うえ体けん
優良賞	3年	荒川西小学校	まちだ しゅんと	ぼくのはたけ
優良賞	4年	原谷小学校	かない ゆあ	緑が多いなすがり楽しいな
優良賞	4年	荒川西小学校	あさみ さら	なすがとれたよ
優良賞	6年	花の木小学校	くろさわ りゅうと	農業のバトンをつなぐ未来の手
優良賞	6年	原谷小学校	かない れい	見よ.オンドリ
JAちちぶ特別賞	5年	高篠小学校	せきかわ あいら	大地のめぐみ

# 作文の部

## 最優秀賞

### 「ずっと守りたい」

#### ばあちゃんの大切な畑

大田小学校 4年 木本 大貴

ぼくが一番好きな食べ物、しおきゅうりです。今年も五月の終わりに、ばあちゃんの畑で育てたきゅうりを半分に分けてしおをすりこんで食べました。とれたてのきゅうりは、みずみずしくて甘くて、とってもおいしかったです。

ばあちゃんは今季節にあつた野菜を畑に作っています。夏の畑はとてみぎやかで、毎日たくさん野菜がしゅうかくできます。今は、きゅうり、ナス、トマト、ズッキーニ、ピーマン、ししとう、とうもろこし、モロヘイヤ、オクラ、かぼちゃ、しょうが、長ネギ、とうがらし、しそ、スイカ、さつまいも、里いも、などたくさん野菜が植えてあります。ぼくも時々、しゅうかくのお手伝いをしています。いろいろな野菜をしゅうかくするのはとても楽しいです。今年は、雨がふらない日が続いたので、水不足で野菜が大きくならなかつたり、苗がかれてしまつたり、いつもの年より野菜が育たなかつたと

ばあちゃんが言っていました。

ばあちゃんは、ぼくが学校に行っている間に草むしりをしたり、畑をたがやしたり、土よせをしたり、し柱を立てたり、ひりょうをあげたり、野菜がおいしく元気に育つように手入れをしてくれています。そのおかげで、おいしい野菜を食べることができます。暑い日も寒い日も、毎日畑を見て手入れをしています。ばあちゃんに、「ばあちゃんはずいね。」と言ったら、ばあちゃんが「みんながおいしい、おいしいと言って食べてくれるのがうれしいし、育てた野菜が大きくなっていくのが楽しみなんだよ。」

と言つて、ぼくをだきしめてくれました。ぼくも、育ててみたい野菜のタネを買つて来て、ばあちゃんの畑にまかせてもらっています。水やりをしたり、ばあちゃんに育て方を教えてもらつて育っています。上手く育つこともあるし、上手く育たないこともあります。えだ豆は、実が全然ふくらまなくて大失敗だつた年もありました。その時、野菜を育てるのはむずかしいんだなと思いましたが、次の年には、水をたっぷりあげたり、ひりょうのやりすぎに注意したり、虫がついていないかよく見るようにしたら、えだ豆の実がふくらみました。売っているものみたくでは

ないけれど自分で育てたえだ豆は、味がこくてとてもおいしかったです。

ぼくがたねをまいて、しゅうかくした野菜を家族みんなが、「おいしい、おいしい。」

と言つて食べてくれると、ぼくもうれしい気持ちになります。ばあちゃんといっしょです。だれかによるこんでもらえることは、とてもうれしいし、またおいしいものを育てたいなと思わせてくれます。

これからも、ばあちゃんに野菜の育て方を教えてもらつて、おいしい野菜を育てたいです。そして、ばあちゃんの畑をぼくもいっしょに守っていきたいです。

## 優秀賞

### 「おじいちゃんとはたけしごと」

花の木小学校 1年 堀口 桂瑚

ぼくのおじいちゃんのはたけはとてもおおきくて、やさしいがいつぱいとれます。

いまは、おくらがたくさんとれます。ぼくは、おくらがすきです。おくらをきつておみそするのなかにいれてたべると、とてもおいしいです。あきになるとさつまいもがとれるので、たのみです。

ぼくは、たまにおじいちゃんのでつ

だいをします。きかいでつちを、たがやしたり、きゅうり、とまと、なすをいっしょにとつたりします。ゆうがたになるとみずやりのてつたいをします。おじいちゃんは、まいにちやさいにみずをあげないとやさいがそだたないとおしえてくれました。

おいしいやさいをつくるのは、たいへんだとおもいました。すききらいをしないでたべようとおもいます。これからもおじいちゃんのおてつたいをがんばりたいです。

## 優秀賞

### 「家での畑仕事で学んだこと」

南小学校 5年 加藤 正慎

ぼくは、家に畑があるので、冬以外は毎日その手伝いをしています。ぼくの仕事は、水をあげること、しゅうかくをすることです。野菜を植える時季には、畑作りと種まきやなえ植えもします。

水あげはとても大切な仕事で、夏は朝と夕方にするのですが、暑い晴れが続く日にサボると、野菜がしなしになつてしまひ、かれてしまうこともあります。水が足りない、野菜の実がしなしになつてしまうことに気がつきました。水がないと植物は育たないので水はとても大切だと学びました。

しゅうかくは、一番楽しい仕事です。実がなるもの、土の中にあるもの、野菜によってそれぞれです。野菜のでき方を観察できるので、とても勉強になります。夕方にしゅうかくした野菜がしなしななときがあつて、朝どりの野菜の方がおいしいということも、手伝いをしていたからこそ知ることができました。ぼくは、きゅうりをしゅうかくして、そのままかじつて食べるのが一番の楽しみです。

畑作りと種まき、なえ植え、その野菜によって植える季節や間かくや深さ、あげる肥料がちがうことを覚えられました。色々と教えてもらい、始めは覚えられませんでした。何年も手伝つていてうちにどんどん覚えることができました。

毎日、畑を見てみると、虫もたくさんやつてきます。きゅうりには、ウリハムシ、ジャガイモにはニジユウヤホシテントウ、エンドウマメには、カメムシのような害虫です。害虫とりをしながら、この虫達は、どうやつて畑があるのを知つて、どこからくるのか、とても不思議に思います。気候や気温や植えた野菜で、出会ふ虫が変わります。毎年会う虫にも季節を感じるのには、農業の手伝いをしていなければならぬ味わえないことだつたと思います。

よくニュースでは、人口ぞう加、気候変動、農業はなれなどから、近い未来には食料不足になるといふのをよく

見えます。ぼくは、畑の手伝いをしていなかったら、こういうニュースを気にすることもなかったと思います。最近の夏は暑すぎて、野菜がかわれてしまつたりしています。温だん化を防ぐ活動や水を大切にするために水げんを守る活動にも興味を持つこともできました。畑の手伝いが、色々なことを考えるきっかけになりました。これから変わるように野菜を作れるかんきょうでいられるように、地球を守る活動を見んなでしていきたいと思っています。

**J A ちちぶ特別賞**

**「これからも続けたい畑のお手伝い」**

大田小学校 6年 木本 葵彩

私の家の前には、ばあちゃんがつつている広い畑があります。そこには、季節に合ったたくさんの野菜が植えてあります。私も小さい頃から畑で虫とやりをして遊んだり、種まきや収穫のお手伝いをしたりしています。種をまいた野菜が大きくなっていつたり、花が咲いたり、葉っぱが大きくなっていく様子を見たり、畑に行くことはとても楽しいです。

私が毎年必ずお手伝いしているのが、じゃがいも植えです。ばあちゃんが、肥料をまいて耕運機で畑を耕して、さく切りをして、うねを作つておいてく

れるので、そこに芽を残して半分に切つたたねいもの切り口に灰をつけて同じ間隔になるように間隔棒を置きながらたねいもを置いていきます。灰をつけると切り口の表面水分が減つて乾燥する事で、植えつけた時にたねいもが腐りにくくなるとばあちゃんが教えてくれました。じゃがいもは、一ヶ月くらいで芽を出して大きく育つていきます。今年も霜が降りて、葉っぱが黒くなつてしまつて、ちゃんと育つのか心配したけれど、日に日に元気な緑色の葉っぱになって安心しました。ばあちゃん、イモが日光に当たると緑化すると同時に、ソラニンという毒性のある物質が作られるため、土寄せをしてイモを地表に出さないようにしています。三ヶ月くらいたつた頃、じゃがいもが大きくなつてくるか試しにばあちゃんとお母さん、お兄ちゃん、弟と一緒に掘つてみたら、今年は八センチメートルくらいちよいどいい大きさのじゃがいもがたくさん収穫できました。一番大きいじゃがいもは、十センチメートル以上もあつてとても大きくてみんなビックリしました。収穫したじゃがいもをみんなで洗つて、ばあちゃんが大きな鍋でゆでてくれました。ゆでたてをそのまま食べてもホクホクしていてとてもおいしかったです。このホクホク感は、採れたての時期の新じゃがいもならではの、私は毎年

新じゃがいもを食べるのがとても楽し

みです。他にも、お母さんと一緒に、じゃがバター・じゃがいものチーズ焼き・カレー・シチュー・じゃがいものみそ汁など、色々な料理を作りました。私は、料理のお手伝いをする事も大好きです。作つた料理をみんながおいしいと言つてくれると、とてもうれい

です。  
種をまいたり、苗を植えたり、お手伝いをして私もばあちゃんと一緒に育てている野菜を収穫して食べるのは格別においしいです。野菜作りは楽しいので、これからはばあちゃんの畑のお手伝いをたくさんして、おいしい野菜を育てたいです。



表彰式にて

図画の部



優秀賞

「ぶどうの仕上げをするおばあちゃん」  
荒川西小学校 4年 新井 葉月



優秀賞

「ぼくとじゃがいも」  
吉田小学校 5年 彦久保 新



JAちちぶ特別賞

「大地のめぐみ」  
高篠小学校 5年 関河 愛来

コンクール講評

秩父市農業委員会 振興部会部会長

豊田 恵男

令和5年度農業に関する作文・図画コンクール開催にあたり、多くの皆様に作品を応募していただき、無事に実施することができました。

審査を行う振興部会員十三名はまず、作文を各家に持ち帰り、じっくりと読ませていただき採点いたしました。次に図画は、部会全員で集まり審査いたしました。出展者全員の作品はすばらしく、全員に賞を与えたいほどでしたが、各賞を選出しないといけないので、今回十点満点で評価をいたしました。

多くの子どもたちが農業に関心を持ち、体験したことを文章に書き、また図画に描くことは、農業に従事する者や農業委員会にとって、こんなに頼もしいことはありません。今後も今の気持ちをお忘れず、家族みんなで協力し合い、畑を耕し、遊休農地が少しでもなくなっていくことを願っています。

今回、JAさんに協賛いただき、JAちちぶ特別賞を設けることができました。また、作品の募集や取りまとめ表彰式等の連絡調整に、各小学校の先生方にもご尽力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。来年度も多くの参加をお待ちしております。

### 市政功労者表彰

11月7日(火)、歴史文化伝承館2階ホールにて、令和5年度市政功労者表彰式がおこなわれました。

秩父市農業委員会からは、長期にわたり、農業委員会委員を務め、農地の保全管理、耕作放棄地解消に尽力し、その他委員会活動にも積極的に参画した功績が評価され、写真右から、長谷川満前農業委員、田口俊夫前農地利用最適化推進委員の2名が産業観光功労賞を受賞されました。おめでとございました。



田口俊夫氏

長谷川満氏

### 農業者年金で安心・豊かな老後を

「農業者の老後は国民年金だけでは不安です」

◎農業に従事する方の

老後の安心に役立ちます。

国民年金 + 農業者年金

◎こんな方が加入できます。

①国民年金第1号被保険者

②年間60日以上農業に従事

③20歳以上60歳未満の方

◎積立方式だから自分が掛けた年額は年金として生涯もらえます。

◎保険料は月々2万円から。金額はいつでも変更できます。

◎支払った保険料は全額社会保険料控除となり、所得税や住民税等の節税になります。

◎政策支援(保険料の国庫補助)が受けられます。

※お申し込みはお近くのJAまで



### 農地利用意向調査に

「ご協力ください！」

令和5年度農地利用状況調査の結果を踏まえ、今年度におきましては、1年以上遊休農地化していると判断された土地の所有者に対して、農地利用意向調査を実施します。通知の届いた方につきましては、「自ら耕作している」、「貸したい意向がある」等の選択肢の中から、現時点での農地の利用意向について最も近いものをご回答ください。

なお、本調査は貸付け希望の農地の把握や非農地判断の参考等、農地の利用の最適化の推進を目的に農業委員会が実施するものであり、課税調査等とは関係がありませんので、あらかじめご承知おきください。

### 問い合わせ

農業委員会事務局

☎(25) 5231

吉田総合支所地域振興課

☎(72) 6083

大滝総合支所地域振興課

☎(55) 0862

荒川総合支所地域振興課

☎(54) 2114

### 「秩父市太陽光発電設備の

適正な設置等に関する条例」

が施行されました

令和5年10月1日(日)から、太陽光発電設備の適正な設置等に関する条例が施行されました。

本条例は、太陽光発電設備の適正な設置、維持管理、撤去等に関する必要事項を定め、災害の発生を防止するとともに、自然環境、生活環境および景観の保全に寄与することを目的としています。

対象は、発電出力が10キロワット以上の太陽光発電事業(屋根・屋上に設置するものを除く)で、設置工事を実施する際には、事前協議、地域住民への周知等を経て、市長の同意が必要となります。

詳細は、市ホームページをご覧ください。ただし、本条例の対象となる太陽光発電設備の事業計画等がございましたら環境課までお問い合わせください。

### 問い合わせ

環境課

☎(22) 2378



## 公設地方卸売市場に

出荷しませんか？

秩父市公設卸売市場(大野原一三〇)  
では出荷者を随時募集しています。

## ○対象者

野菜、果物の出荷が可能な方。

## ○出荷方法

詳細は、お問合わせください。

## ○受付時間

午前5時～7時  
午後6時～8時

## ○手数料

野菜 8・5%  
果実 7・0%

## 【問合せ】

秩父市公設地方卸売市場

☎(23)5911

※午前8～12時(日水祝を除く)



## 注意！あなたの土地が狙われています！

「草刈りして返すから、一時的に資材置場として貸してほしい」、「重機を数日間だけ置かせてほしい」などと言葉巧みに話をもちかけて同意を取り、又は同意を取らずに、法令手続きを無視して短期間に大量の土砂等を堆積する事例が発生しています。

土砂を堆積するには法令手続きが必要です。

違法な土砂等の堆積が行われた場合、これらの責任や撤去費用の負担は、行為者だけでなく、土地所有者に及ぶこともあります。

このようなトラブルに巻き込まれないよう、うまい話があっても安易に土地を貸さない、定期的に土地を見回るなど、自分の土地は自分で守りましょう。

### 問い合わせ

農業委員会事務局 ☎25-5231 秩父農林振興センター管理・農地担当 ☎24-7211

## STOP！農地の違反転用

- ・農地を転用する場合は農地法による許可又は届出が必要です。
- ・許可を取らずに違反転用した場合、3年以下の懲役または300万円以下(法人は1億円以下)の罰金を科せられる場合があります。

### ①農地転用許可が必要になるケース

- ・農地に住宅等の建物を建てたり、農地を資材置場や駐車場として利用する(農地転用する)場合
- ・農地転用するために農地を譲渡する場合

### ②農地転用許可の手続き

- ・転用しようとする農地が所在する市町村の農業委員会に、所定の様式で農地転用許可申請書を提出する。

### 問い合わせ

農業委員会事務局 ☎25-5231 秩父農林振興センター管理・農地担当 ☎24-7211

## 朝の光



農業委員  
長谷川 玲  
(寺尾)

私は農業委員会に入り、現在数か月が経過したところだ。自分の経験と知識のなさを痛感する日々だが、農地法のことや、農地管理のことなど、少しずつ学ばせていただいている。今回は私なりに活動を通して感じたことと、今後農地を繋いでいくために必要と思うことを共有したいと思う。

私は農地パトロールをする中で、秩父は中山間地域で農地の管理をするのも、農業を営むのもやはり簡単な場所ではないと改めて感じた。小さな農地が点在していたり、獣害対策も欠かせなかつたりする。作業の効率化や生産量の確保をする中で、見合わないほどの工夫と投資、また体力も必要なため、農業だけで生計を立てたり続ける方法は限られる。しかし、農家さんから話を聞いてみると、まだ農地として使えるところも沢山あり、自分自身が存続することが難しいと感じていても、地域の農業や農地を守りたいという声は沢山あった。だからこそ、私は農地を守るため

に、「農」への参加の幅を広げる枠作りが今は必要なのではないかと考える。そして、農家さんだけが考えるのではなく、地域で「農」の課題と一緒に考え参加するのである。現在、まずは農業に携わっている方々の横のつながりを作りつつ、農に関わりのなかった人たちの参加できる機会を作り始めている。例えば山間地での農業の課題解決を目指す大学の先生をお呼びして農家さんや農林振興センターの方を交えて意見交換会を開催したり、農家さんの収穫作業で出る廃棄部分を加工して新しい商品を開発したり、一緒に開発したり、農業を学ぶ学生と秩父の農業の未来を考えたり、秩父に観光で来ている方と収穫イベントをしたりである。普段接点のない人とでも、同じテーマで考えると、新しい発見があつたり、取り組むことや、考えること自体に前向きな気持ちになつたりすることができると感じている。すぐに結果に結びつけることは難しいかもしれないが、高齢化や担い手不足で一気に耕作放棄地が増えることも予想されるため、自分の代だけなら見て見ぬ振りもできる「農」の課題に対して、周りの人と話題にあげ、何ができるだろうかと考え自分事として参加する人を増やすことが、秩

父の子どもたちに明るい未来を託せる唯一の方法であると考え。私も知識も経験もない中で農業委員に任命していただいたからこそ、自分にできることを諦めず考え、学び、参加したいと思う。

## 耕地の話題



最適化  
利用委員  
推進  
今井 和美  
(下影森)

結婚して、家を建て、自宅の前で野菜を育てようと考えた。私が子どもの頃、祖父が野菜を当たり前のように作り、柿や栗は買うものでなく、木から取る物と思っていた。

野菜栽培にあたり、夫の実家の富山からクワを譲り受け、早速耕してみた。しかし、富山のクワは、形が楕円ではばらくするとポツキリ折れてしまった。そう、秩父の土地は、石がとても多く、しかも硬いのだ。

地盤も強く地震にはとても優れた地域ではあるが、耕作地としては、大変厳しい地域である。しかし、影森の祖父は、私が子どもの頃、簡単そうに野菜を作り、また近所の人も作っていた。そこで、クワは、

私の実家(影森)から、譲り受けた。今度のクワは、先がとがっていて、ガンガン耕せそうな見慣れた形であった。再挑戦で耕してみると、しつかり土に入り、硬くて、大変ながらも耕すことができた。

野菜初心者の私は、とりあえず、ミニトマトの苗を買って植えてみた。一年目は、何をしなくても、食べきれないほどたくさんトマトができた。しかし、そう上手くはいかず、二年目からは、できなくなっていく。野菜を栽培している皆さんには、当たり前前のことだが、肥料をやっていないからだ。そこで、野菜作りの本を読んだり、NHKの「やさいの時間」の番組を見て、肥料やわき芽とりなどの手入れを学んだ。

少しづつ栽培する野菜も増え、今まで見たことのない、ヒモナスや大滝いんげんなど、苗をいただいて育て、日々勉強である。痩せていると言われる秩父の土地であるが、農家の皆さんが、色々な種類の野菜を作っている。これは、先祖から耕地を大事に何代にもわたって受け継いでいるのであろう。

私は、今期から農地利用最適化推進委員となり、この大切な土地を後世に伝えていく橋渡しを担っていききたい。

# 農を詠む



関口良子(註)

(上野町) 関口 良子

脚許の力んでるたる棚田稲架

(高 篠) 村田 軍司

園児らの棚田は十坪稲を刈る

(高 篠) 強谷 幸雄

勤勞奉仕の面影いまに稲架を組む

(荒 川) 逸見 壽江

逆さ干しされし野良着と唐辛子

(上野町) 小林 敏子

武甲嶺の裾に住み古り蕎麦を刈る

(蒔 田) 豊田 玉女

弟の介護の合間稲架を組む

(中宮地) 浅見 昭文

葡萄棚の一房妻と分かち合ひ

(蒔 田) 島田 敦子

学童の声ひびき来る刈田徑

(上 町) 石川 弘美

ブルーシート掛けられ雨の稲架襖

(高 篠) 武藤 圭子

胡麻刈って嬰のごとくに抱き来る

## 知々夫の夜ばなし

### 天保巡見使のことなど

荒川歴史懇話会 新井 充

芳賀市三郎ら三人の御料(幕府領)巡見使及び従者等二十一人は、大飢饉の渦中の天保九年三月から七十日間かけて、武蔵ほか四か国郡数三十五、六百三十五の村々を巡見した。秩父郡内の行程は、安戸・大宮郷・費川・小鹿野・金崎で宿泊し、主に荒川左岸の御料の村々及び百姓の実情・実態の把握に務めた。三月廿九日に上小鹿野村に向け、費川村を出立した際の記録に依れば、沿村十四力村の村々に、馬三疋、人足百五十人ひき等、総勢二百人余の人員が割り当てられたらしく、村々の負担の大きさが伺われる。天保巡見日記

江戸時代、多くの旅人が秩父を訪れ、様々な紀行・日記を著しているが、その殆どは庶民によるものであり、三峰大権現(三峰神社)・妙見神社(秩父神社)・秩父観音霊場等の参拝紀行が大半を占めている。巡見副使であった芳賀市三郎が公務の傍らに記した天保巡見日記(以下「日記」)は、私的な備忘録であるため、村々の実態が幕臣の視点から率直に本音で語られており、秩父の人々の実情の一端を知る上で類稀な極めて貴重なものである。「日記」中で、市三郎は秩父人の

氣質について以下の様に記している。(以下、原文を意識)

全体の氣質は、山間の地方であるため、辛勤艱苦の生活を送る百姓らは朴直な者が多いが、余裕のある者の中には上辺を飾る風があり、自分の主張を通したり、意気に感じ義侠心から悪い方に徒党を組みやすい。

また、大瀧村については、居民は農耕の外に諸産物の副収入が多く、大金が飛び交い金銭に余裕があり、甚だ富裕である。実に天嶮の要害、御府内第一の地である。

尚、「日記」の大半は、三山村の名主である近藤文内の善意・善行に関する記事で占められており、市三郎が文内の人柄に如何に惚れ込んでいたかが文面から読み取れる。芳賀市三郎

同年十月、評定所留役に昇進していた芳賀は尚齒会の会合で、評定所のモリソン号打払いの答申案を渡辺華山、高野長英等に示した。これを憂えた両人は、夫々幕政を批判する内容の書物を著した。これを咎めたのが、畜社の獄と言わとがれる幕府に依る洋学者に対する弾圧である。後、華山は切腹し、長英は獄に繋がることになる(後、脱獄・逃亡)尚、芳賀市三郎へのその後の処遇及び消息等は辿ることができない。

## 編集後記

青野 孝司

本号では、農業委員会が主催しました、小学生による「農業に関する作文・図画コンクール」の作品を紹介しております。どれも、農業に対する関心と期待に満ちた秀作ぞろいです。

ところで、日本の食料自給率は、令和2年度で約37パーセントと、極めて低い水準にあります。地球規模での異常気象や軍事紛争等が多発する中、「食料安全保障」は、重要な課題となっております。子どもたちの将来に向けて、食糧危機を招かないよう、食糧自給率の向上に努めていきましょう。

## 秩父市農業委員会

広報部会員

- 部長 青野 孝司
- 副部長 小久保健司
- 委員 井原 愛子
- 委員 岡田 英幸
- 委員 栗原 恒明
- 委員 齊藤 稔
- 委員 新田 恭一
- 委員 横田 友
- 委員 吉川 稔